

山行報告 : 西上州 日影山~日向山と中尾山

【実施日】 2016年12月30(金)~31(土) 両日とも快晴

【参加者】 CL 柘植秀樹 SL 石橋きよみ 加藤洋子 澤田路子(記録)

【記録】 今年も昨年と同じメンバーで年末の30、31に柘植さんリーダー恒例?大みそか藪山山行が実施される。報告も変わり映えせず澤田が指名を受けたが、不勉強を棚に上げ、なかなかどうしてどこをどう歩いたのか明解に報告しがたい渋い山行だった。

☆12月30日(水) 日影山~日向山

七久保(駐車) 8:15→梶峠分岐 8:45→1141P 9:40→日影山 10:50→日向山 12:20→

林道 14:10→七久保 14:40



早朝 4:15 に津田沼で加藤+澤田組がピックアップされ、市川で石橋さんと合流し、まだまだ仕事中の大型トラックががが行く中順調に目的地へ向かう。8:15 小沢岳入口の標識のある所まで車で入り駐車。数台は止められそう。あたり一面うっすら雪化粧。結構冷え込んでいて、しっかり着込んでスタートする。川沿いの林道は、夏なら嬉しい水の音や透明な流れも、よけいに寒さを実感させる。しばらく行くと伐採後あらたに植林された斜面が広がり、苗には一本一本食害防止の網がかけられている。30分ほど林道を歩くと「到る小沢岳 50分」の道標出現。梶峠の分岐で左の道をとる。その後も林道のような作業道とおぼしき道がくねくね続くようだが、ショートカットしながら適当に落葉の斜面を登って高度をあげていく。たっぷりの落葉の下は凍結していて油断ならない。



梶峠にて



林道のような作業道のような怪しい道を行く

ここで道みちメンバーがつぶやいていた言葉を合作にして駄作の一句

…… 薄雪の落葉踏みつつ行く年をしみじみ思う晦日の山 ……

冬枯れの雑木林の木立の間からさす陽がまぶしく温かく、凜とした冬空の青さを引き立てる。この時期ならではの定番の山景色だ。1141mの小ピークで腹ごしらえ。 図根点と三角点があって違いは何？としばし図根点が話題になり、帰ったら調べてみようという宿題になった。



幾何学的文様の尾根筋を行く



主稜線との合流地点

尾根をひろって赤テープを目安に緩くアップダウンを繰り返すと途中また林道。少し登ると見晴らしのいい主稜線との合流地点に出て、さすがに風は冷たいが二子山、武甲山、浅間山、両神山、遠くは冠雪した南アルプスらしき頂まで見える。そこからゆるく一登りで日影山。



中央は二子山、遠景左手は武甲山



とても日当たりのよい日影山

山頂は風なく小春日和そのもの。眼下に富岡の街？が一望に広がる。一息入れて証拠写真撮影の後次の日向山へ向かう。急下降 10 分ほどで道路に出て、次は背丈くらいの笹の藪漕ぎもどき 10 分程でまた道路に。すると反対方向から雪の林道を車が一台走ってきて「えっ！こんなところに車が」とびっくり。また尾根にとりつき岩稜の痩せ尾根から岩峰を巻きぎみに通過し、馬酔木のトンネル尾根を一登りで笹の生茂る雑木林に囲まれた日向山山頂に到着。こちらの方は日影で寒く「日向山と日影山が逆転している」などなど雑談しながら小腹を満たしてそこそこに下山開始。しばらく往路を戻り途中からダイレクトに下りる尾根にのる。1100m 付近から突然左右とも切れ落ちた急傾斜の痩せ尾根となり、ここはアイゼンをつけて下る。地面は凍っていて、頼りにしようとする立木も枯れてあてにならない急下降のため、アイゼン持参は大正解だった。



本山行随一の大展望（遠く中央は浅間山）



ちょっと陽も傾いてきた日向山

西上州の山域を「細かい道で突如現れる岩場や痩せ尾根の通過で味わう緊張感。スパイスのきいた充実感を短時間で味わえる山域」というのも頷ける。急下降を終え、尾根も広く傾斜が緩くなる頃、傾きかけた午後の陽射しは木立の長い陰を落葉の絨毯に映し、なかなかのアート感。リーダーが「こういう感じがいいよねー」とつぶやく。今回のメンバーはどうやらこの時期の西上州に惚れ込んでいるらしく、周辺の山にもやたらに熟知していていつもながら頭が下がる。

最終林道に出ておしゃべりしながらのんびり歩くが、所々つるつるに凍っていて最初に軽く転んだ石橋さんを見て注意しなきゃねと言いながら柘植リーダーが思い切り転倒。着地場所が悪く後の入浴時まで打身打撲がこたえていたようで心からお気の毒様。ほんとに駐車場まであと一息という所だったのに。冷えた身体を「妙義温泉もみじの湯」でゆったり温め、食事もそこで済ませ、閉まる時間の7時まで休憩室でのんびり過ごす。食堂のメニューはどれも美味しくてなかなかリーズナブルだと大満足。加藤さんが絶賛する露天風呂からの風景はすばらしく、おすすめ通りピンクとブルーのグラデーションにそまる夕焼け時と二度目の夜景時を堪能し、ほかほかですぐ近くの本日のお宿「道の駅みょうぎ」に移動する。テントでも途中買いこんできたぶりぷりの下仁田蒟蒻を石橋さんの友達特製ゆず味噌で田楽にいただき、お腹があたたまったところでシュラフに潜り込む。

☆12月31日(土) 中尾山

みちの駅下仁田発 6:45→久保付近（駐車）7:30→中尾山 9:30→渡渉して林道 11:00→久保付近（駐車）11:30



6:00 起床後すぐに撤収して本日の目的地に向かう。途中のコンビニで暖かな食事をいただき、コンビニのありがたさを再確認。テントで各自食事を作るより確かに早くて合理的かもしれない。計画書には久保付近とあったが、どこかの工場か営業所の前の邪魔にならない空きスペースに駐車し、7:45 出発。気温 0.2 度。車に置いてあった登山靴が凍っていた。しばらく林道を歩き、20 分程で山道へ。と思ったらすぐに道なき急登がはじまり 30 分ひと汗かく頃尾根に出る。雲ひとつないスカイブルーの空。



凍ったやせ尾根は油断ならない



冬枯れの尾根を行く

本日も落葉の下は凍っていて、油断大敵だが雪は全くない。しばらくは尾根伝いのアップダウンが続き、小ピークに出て痩せ尾根を下り落葉ふかふかを漕ぐように登ると中尾山に到着。登り 2 時間だ。山頂は風が強く、木立の中でたいした展望もなく、かろうじて見える山名板が一枚下がっているだけだった。



古びた山名板が一枚だけの中尾山山頂



浅間山がその白い頂をわずかに覗かせている

一枚着込んで 904m の小ピークを目安にそこから下山開始。痩せ尾根をこえて鞍部へ。ほどなく植林帯に入り下りきった所で尾根を右斜面に降りると遠入川の支流にぶつかる。飛び石伝いに渡渉して対岸の林道を少し歩き、矢ヶ崎橋のところから 18 号の道路歩き 30 分ほどで「株式会社共和」の看板を目安に左の道を入るとすぐに朝駐車した場所に到着。まだ昼前だったが、入浴もせず、食堂にも入らず、ひたすら千葉へ一路。おかげで明るいうちに帰宅し、余裕たっぷりでもまだ残っていた大掃除やおせちづくりの残り作業も色々できて、お得感満載の充実した大晦日になったことに今年も感謝。

どこかにこの山域を「晩秋から初冬にかけて古くから歩かれてきた素朴な山峡の山と峠と山村を結ぶ低山歩きはいぶし銀のような味わいのある大人の山旅」と紹介していたが、特筆すべきハプニングはリーダーの転倒くらいで、大人なメンバーにふさわしい淡々とした静かな年末山行だった。

(報告 澤田路)